

「謝り合う心が育つ」

雪も降り、ようやく冬らしくなってきました。踏むとすぐに溶けてしまうような雪ですが、子ども達は大喜びでスキーウェアに身を包み元気に園庭で遊んでいます。寒くなってきて周辺では、インフルエンザも発生してきているようです。うがい手洗いをし、しっかり予防していきたいですね。

今月は「謝り合う心」を育むことを目標に掲げております。ゴルゴ松本の著書に「あっ！命の授業」があります。著者は少年院を訪問し、漢字を使つての授業を行っています。その著書の中に書かれていた一文を紹介します。

『「謝」はごんべんに射ると書きます。矢を射るように言葉を放つ、つまり言葉に出すということです。悪いことをしたらすぐ言葉に出して謝るんです。』

というものです。しかし素直に謝ることは難しいものです。自分が悪いことをしてしまったと心の中では思っていると言葉では表せない。子ども達のそのような光景を見るのが度々あります。言葉にするにはなかなか時間がかかります。大人が「ごめんねは？」と催促すればする程口を閉ざします。温かい眼差しで見守り励ますことでようやく言葉にできるようです。

悪いことをしてしまったという重い荷物を謝るという行為で少しでも軽くなることを知るには、相手が赦してくれなければなりません。赦すという行為も相手を思いやる気持ちかなければ出来ないことです。大人の私たちも子ども達と一緒に「謝り合う心」を育てていきたいと思います。

<園長 平野義子>



おたんじょうび  
おめでとう

♪コンコンクジャンのうた♪

- 1、りすさんがマスクした ちいさいちいさいちいさいちいさいマスクした  
※コンコンコンクジャン
- 2、つるさんがマスクした ほそいほそいほそいほそいマスクした  
※繰り返す
- 3、ぶうちゃんがマスクした まるいまるいまるいまるいますした  
※繰り返す
- 4、かばさんがマスクした おおきいおおきいおおきいおおきいマスクした  
※繰り返す
- 5、そうさんがマスクした ながいながいながいながいなすした  
※繰り返す



♪マリアさまのこころ♪

- 1、マリアさまのこころそれはあおぞら わたしたちをつつむひろいあおぞら
- 2、マリアさまのこころそれはかしのき わたしたちをまもるつよいかしのき
- 3、マリアさまのこころそれはうぐいす わたしたちとうたうりのうぐいす
- 4、マリアさまのこころそれはやまゆり わたしたちもほしいしりのやまゆり
- 5、マリアさまのこころそれはさふあいあ わたしたちをかざるひかるさふあいあ



★おとうさん、おかあさんから★

ひよこ組からお世話になり、はじめは毎日泣いてばかりで心配でしたが、今では毎朝「早く保育園行こう～」と1人で準備もするようになりました。たくさんの友だちもできて、先生もカトリック保育園も大好きな〇〇です。残りの保育園生活も楽しく過ごしたいと思います。

< ひつじ組 〇〇〇〇くんのお母さん >

〇〇〇は三月に生まれ五月には入園という、本人も何もわからないままの保育園生活のスタートとなりました。そして気が付くと保育園に通うことが当たり前前の〇〇〇。朝早くから、夕方遅くまでの園生活。最後の一人になり、寂しそうに迎えを待っている時もあり、仕事をしていることへの罪悪感を感じ、落ち込むときもありました。そんな時も遅い時間にもかかわらず、迎えに来た私に今日の出来事を丁寧に教えて下さる先生方。人より不器用でんびりな〇〇〇に、根気強く指導して下さる先生方。本当にカトリック保育園に通えて私も子どもたちも良かったです。姉の時から長い間大変お世話になりました。

< ひつじ組 〇〇〇〇〇くんのお母さん >



### ばんび組 (0歳児)

<ねらい>・してはいけないことを知り、「ごめんなさい」を動作で表そうとする。

- ・喜んで身の周りの世話をしてもらい、自分でしようとする。

<家庭連携>・生活や遊びの中でいけないことをした時はきちんと知らせ、繰り返すことで「ごめんなさい」と動作や言葉にして表せるようにしましょう。

- ・スポンの履き方などを一緒に行いながら丁寧に知らせ、自分でしようとする気持ちを育んでいきましょう。



### ひよこ組 (1歳児)

<ねらい>・「ごめんね」「いいよ」と謝ったり、赦すことを知る。

- ・見立て遊びを通して友だちと関わって遊ぶ楽しさを味わう。

<家庭連携>・いけないことをした時はなぜいけないのかを知らせながら、謝ったり赦すことの大切さを知らせてください。

- ・見立て遊びを通して言葉のやりとりを楽しめるように、優しく受け答えをしてあげましょう。

### ことり組 (2歳児)

<ねらい>・「ごめんね」「いいよ」と素直に謝り、赦し合う心地良さを知る。

- ・言葉への興味・関心により語彙が増える。

<家庭連携>・子どもの話す素直な「ごめんね」の気持ちを十分受け止めることで謝り、赦し合うことの心地良さを味わえるようにしていきましょう。

- ・子どもの話に耳を傾け、話す楽しさを味わう中で言葉への興味・関心が高まるような受け答えをしていきましょう。



### こねこ組 (3歳児)

<ねらい>・謝ろうとする心、赦そうとする心が育つ。

- ・食事のマナーを意識して食べる。

<家庭連携>・形式的ではなく気持ちを込めて「ごめんね」と謝ったり、素直に赦せるよう知らせていきましょう。

- ・今年度中に全員が箸へ移行することを目指しています。正しいスプーンや箸の持ち方を練習したり、食器を持って食べる等、もう一度食事のマナーについて確認してみましょう。

### うさぎ組 (4歳児)

<ねらい>・互いに謝り合う心、赦し合う心が育つ。

- ・身の周りのことに自信を持って取り組むことができる。

<家庭連携>・生活や遊びを通して互いに謝ったり、赦すことができるよう知らせていきましょう

- ・生活の流れの中で身の回りのことを自主的に行動できるよう気づかせたり見守り、できた時は沢山褒め、自信へとつなげていきましょう。

### ひつじ組 (5歳児)

<ねらい>・相手の気持ちに気付き、謝ったり快く赦し合う心が育つ。

- ・考えて行動する力を養う。

<家庭連携>・素直に謝ったり、赦し合えた時には褒め、その頑張りを認めてあげましょう。

- ・困った時等、すぐに教えるのではなく考える時間を作ってあげることで、考えて行動することが習慣づくようにしましょう。

### ☆ 給食室から ☆

インフルエンザもちらほら聞こえてきます。うがい・手洗いはもちろんの事、冬場ですが水分をしっかり摂りましょう。体が乾くとウィルスや菌に感染しやすくなります。そして質の良い睡眠や栄養のある食事など、規則正しい生活を心掛けましょう。

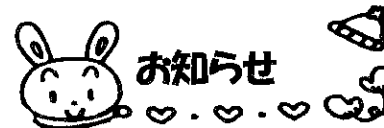


### 「謝り合う心が育つ」

「先生〇〇ちゃんがね…」毎日何度も聞くやり取りです。行ってみるとばつが悪そうに立っていて、話をしてもなかなか素直に「ごめんね」の言葉が出てこないこともよくありますが、その表情から「悪いことをしてしまったな」という気持ちは伝わってきます。しかしそこは言葉にしなきゃわからない、子ども達は「ごめんね」の一言があるまで納得できないんですよね。

悪かったとわかっていながらも一度出てしまうと引っ込みがつかない、そんなこと大人でもありますよね。私も頑固な方で、自分は悪くない!と一度思うと自分からなかなか謝れないタイプです。しかし原因はこちらにもある…と後々後悔します。大人でもやはり「ごめんなさい」の一言があつてこそ和解決します。子ども達に「ごめんねするんだよ」と言いながらも、自分自身も素直に謝らなければいけないなど改めて感じました。言葉に出して謝る勇気や大切さを子ども達にも伝えていきたいと思っています。

<こねこ組担任 大場千佳子>



・手袋や帽子等、防寒具に大きく名前を記入して下さい。

・兼ねてより入籍を済ませておりました工藤保育士の姓が、畠山となりましたこと

をご報告致します。これからも変わらず宜しくお願い致します。



## あなたの一分間拝借！

2016年2月1日

2月の心の教育目標は、『謝り合う心、赦し合う心の育成に力を注ぎましょう！』です。

振り返ってみますと、家庭、学校、職場等で秩序が乱れ悲しい思いをすることは、ひとえに私たちがそれぞれの場で自分の言葉や行いを振り返る事を怠ったり無視したりする驕（おご）りの心に起因するものと思われまふ。どんな小さなことでもお互いが自分の非を心から認め反省し、相手に謝罪する謙虚さがないと和解の柱を打ちたてることが出来ないものです。昔から「水に流す」という言葉があります。この言葉はよく考えてみると非常に曖昧（あいまい）なキナクサイ言葉ではないかと思ひます。トラブタことをお互いに『水に流しましょう』だけで反省と痛悔と償いの心が伴わなければ真の解決にはならないのではないのでしょうか。国と国、民族と民族との場合には尚更『水に流して・・・』の流儀では、再燃は必定のこと・・・心してかかるべきことと信じます。

聖書にイエスの言葉が次のように記されています。

- ① あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したならその供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰ってきて、供え物を献げなさい。（マタイ5の23～24）
- ② もし人の過ちを赦すなら、あなた方の天の父もあなた方の過ちをお赦しになる。しかし、もし人を赦さないならあなた方の父もあなた方の過ちをお赦しにならない。（マタイ6～14）
- ③ 私たちの事をお赦しください、私たちも人を赦します！（マタイ6の12）  
これらの御言葉は、社会にまた家庭に平和な秩序を立ち上げるためには、和解仲裁ほど大切なものはないことを人類にメッセージされた真理であることに目覚めるよう促してあります。熟読玩味に値する御言葉と受け止めて頂きたいものです。

世の中に完全な人間は一人もおりません。皆、欠陥人間です。過失、罪、欠点を持っています。子どもも大人もトラブルに悩まされます。大事なことは、お互いに人格的存在であることを認め、尊重し合う心を失わず交わることではないでしょうか。私たちが平和に生きていく為には、欠陥人間であればあるほど『謝り合う心、赦し合う心』が育成されていなければ平和な社会、家庭が実現されないことを教えて下さったイエスの御言葉に限りなく近づいていく努力が一人ひとりに求められているのです。イエスは自分の御言葉を信じて赦し合って生きる人の心に『永遠の命』を約束してあります。

- ④ イエスが天に帰られるとき、十字架上の最たる苦しみの中から叫んだ遺言ともいべき御言葉である最高のメッセージを心に銘記して2月のテーマに挑戦していただきたいものです。  
『父よ、彼らをお赦し下さい。自分が何をしているか知らないのです。』（ルカ23の34）

この言葉は、「あなたの敵を赦し、その改心のため祈りなさい！」と仰せられたとおり、苦しみの中でも赦し合うことの大事な事（救われるために）を論されたイエスの模範を胸に2月のテーマ実践に取り組みましょう。イエスはまさに有限実行者であるといっても過言ではないと思ひます。聖書は、イエスの最期を体験したローマの百人隊長が「げに、あの方は神の子であった！」と叫んだと示してあります。

もし人の過ちを赦すなら、あなた方の天の父もあなた方の過ちをお赦しになる。しかし、もし人を赦さないならあなた方の父もお赦しにならない。（マタイ6の14～15）

カトリック古川教会  
司祭 川井 啓

